

「やまがた緑環境税活用施策の目標設定」に対する意見について

(H28. 9. 5現在)

(各委員からの意見)

(1) 環境保全を重視した森林施策の展開	
安部雄祐委員	森林ノミクスに基づき、木材利用を通して環境保全を進めるという考え方で11,600haが良いと考えます。出来れば、木材利用が増えることも考えるとそれ以上でもよいと思います。
小原芳子委員	H19～H28の実績見込みが113%になるようですから、これからの10年間も11,600haは実施できると思います。これからますます管理放棄される箇所が増えるような気がしてなりません。少しでも多く実施できることを望みます。
金澤裕子委員	目標値11,600haは妥当な目標だと思います。(しかし、H19～H28の整備実績(見込み)が11,689haと、目標を達成しそうなこともあり、もう少し高い数値にしてもよいのでは?と思いました。
川合要一委員	まだまだ未整備の森林が多く、新たに病虫害にかかる森林も増加しているため、この数字、目標面積は妥当だと思います。
櫻井洋子委員	これまでの10年間の実績をもとに設定した目標値であることから、適切であると思いました。
林 雅秀委員	意見というより感想に近いですが、森林整備面積の目標として、何が妥当なのか判断が難しいと感じます。
意見総括	やまがた緑環境税を活用した森林整備の10年間の計画面積を目標として設定し、その目標面積を11,600haとすることは妥当。

(2) みどり豊かな森林環境づくりの推進	
安部雄祐委員	個人参加ではあまり期待できないと思うので、企業や団体の活動に導入してもらい、もう少し簡易な形での参加者を増やしていきたいと考えます。県内人口の約5%くらい、70,000人で良いと思います。
小原芳子委員	高齢者社会が進んでいく中で、森づくり活動への参加者数を増やすのはむずかしいのではないでしょうか。
金澤裕子委員	70,000人の目標は、妥当な数値だと考えます。
川合要一委員	これでよろしいかと思えます。
櫻井洋子委員	この目標値が妥当な数と打ち出したのだと思いますが、高すぎないのかと感じました。森づくりの参加者数を増やすことは望ましいとは思いますが、27年度にかけての増加に、26年度の全国育樹祭という大きなイベントがあったことが関係していないのであれば別ですが、人口減少や子どもの数も減っていくだろうという予想があるなかです。どうなのかなと思ったところです。以上の事は、単なる感じですので、根拠があって設定された目標値であれば、このままで良いと思います。
高谷時子委員	目標設定は良いと思います。が、今後に向けて、毎年7月の第1日曜日に「県下一斉川清掃」がありますが、山に向けても参加方法を考えてはどうでしょうか。
林 雅秀委員	参加人数の目標としては妥当ではないかと思えます。ただ、参加人数だけを目標にするのではなく、活動への参加を通して環境づくりが進んだのかどうか、あるいは、森林の役割についての理解が深まったのかどうかといった評価基準も必要ではないかと思えます。
意見総括	やまがた緑環境税を活用した森づくり活動などへの参加者数を目標として設定し、平成38年度のやまがた緑環境税を活用した森づくり活動などへの参加者数70,000人を目標とすることは妥当。

(3) 豊かなみどりを守り育む意識の醸成	
安部雄祐委員	緑環境税に対して良いことだと考えている方が約8割を占めているので、この方たちには是非認知してもらいたいと考えます。まずは50%という目標値でもよろしいんじゃないでしょうか。むしろ50%以上は欲しいですね。
小原芳子委員	学校教育の中で森林整備の事や森づくり活動の事なども取り入れていけば、緑環境税の事も自然にわかるようになると思います。又、整備された箇所など、みんなが見る新聞等に掲載されていたら一般の人達も認知度が進むと思います。
金澤裕子委員	過去に認知度が低下していることもあり、50%というのは目標として妥当な数値だと思います。
川合要一委員	県民の半数が認知してもらえれば充分だと思います。
櫻井洋子委員	上記の1・2については、10年間で積み上がっていく数値ですが、認知度はそうはならない点が難しいと思います。どの時点での認知度を50%とするのか、例えば、前期5年間で50%、後期はさらに上を目指すということも考えられるのではと思ったところです。（ただし、これから5%上げていくことが、容易にできることなのか難しいことなのか見当が付かないので思ったままを書いています）
高谷時子委員	認知度を高める方法として、“やまがた緑環境税 ありがとう”シールを作り（切手サイズ）給料袋に年1回ぐらい貼ったら如何でしょう。
林 雅秀委員	認知度の目標としては妥当ではないかと思えます。ここからは個人的な感想ですが、あまり認知度にこだわらなくてもよいのではないかと思っています。それよりは、環境保全に貢献するような事業を着実に実施することのほうが重要だと思います。
意見総括	やまがた緑環境税の認知度の向上を目標として設定し、県民の半数以上からやまがた緑環境税を認知していただく（認知度50%以上）ことを目標とすることは妥当。